

平成 22 年 7 月 26 日に埼玉県鴻巣市で発生した突風について
(気象庁機動調査班による現地調査の報告)

7 月 26 日 16 時 05 分頃に鴻巣市西中曽根で突風が発生し、住家の一部損壊などの被害が発生した。

このため 27 日、熊谷地方気象台は職員を気象庁機動調査班として派遣し、現地調査を実施した。

結果は以下のとおりである。

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻と推定した。

(根拠)

- ・ 被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であった。
- ・ 物を巻き上げながら被害地域を移動する渦の目撃証言が複数あった。
- ・ 被害や痕跡は断続的であるが線状に分布していた。

(2) 強さ (藤田スケール)

この突風の強さは藤田スケールで F0 と推定した。

(根拠)

- ・ 複数の住家で屋根瓦の捲れや落下がみられた。
- ・ 納屋や倉庫の移動がみられた。

本件の問い合わせ先
熊谷地方気象台 防災業務課
電話 048-521-5858

参考資料

F スケール（藤田スケール）とは

F スケール（藤田スケール）とは、シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された風速のスケールです。

F0： 17～32m/s（約 15 秒間の平均）

テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。

F1： 33～49m/s（約 10 秒間の平均）

屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。

F2： 50～69m/s（約 7 秒間の平均）

住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。

F3： 70～92m/s（約 5 秒間の平均）

壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。

F4： 93～116m/s（約 4 秒間の平均）

住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1 トン以上ある物体が降ってきて、危険この上もない。

F5： 117～142m/s（約 3 秒間の平均）

住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。